

前職バンドマン

1985年に小さな貸し工場で樹脂成形を始めた河島製作所。「長らく100%下請け。いや、下請けどころか孫請けばかりの仕事だった」と社長の河島直也は振り返る。それでも30年余りで5度の移転拡張を繰り返しながら成長。変化は規模のみにとどまらず業容にも及ぶ。現在30人の社員のうち5人が設計・デザイナーで、売り上げのうち自社製品が約40%。成形屋の枠を超えたビジネスモデルを構築している。

成長企業チカラの源泉 90

河島製作所

「下請けではやりたいことがやれない」との不満も、90年代半ばに転機が訪れた。通常、成形の仕事では顧客から金型設計費用をもらい、金型の権利も顧客側が持つ。しかし「このつり下げ用フックは売れる」と見た河島は顧客と交渉して金型を取得。その上で自社ブランドとして形状やサイズ

高精度樹脂成形

自社ブランド展開 脱下請け



社長 河島直也氏

を展開し、現在3600種以上をそろえ同分野で国内シェアトップを争う。

旬を逃さず

さらに成長を後押ししたのがスマートフォンと、煙脂成形技術を駆使し、「加熱式たばこ」

のカバーケースだ。カバーケースを手がける企業は多いが同社には強みがある。3Dプリンターでの試作。金型の加工や肉盛り修正する設備を保有し、旬を逃さず量産する。また米フィリップモリスの加熱式たばこ「IQOS(アイコス)」向け



加熱式たばこのケース。本体のふたと連動する

付加し本体ロックが壊れても支障なく使える構造にした。アイコス本体は高価なため本体ロックの爪が壊れても使い続ける人が多いからだという。

「iQOS(アイコス)」向けカバーケースでは高精度樹脂成形技術を駆使し、アイコス本体のふたがカバーケースのふたに追従して開閉する機構を実現。カバーケースに口本体の寸法データを基に、独自機能で差別化できるカ

【敬称略、東大阪支局長 坂田三子】

【企業プロフィール】

▽所在地 大阪府東大阪市高井田中4の6の24▽社長 河島直也氏▽創業 85年(昭60)9月▽売上高 10億2000万円(17年3月期)